

数値目標の修正前の記載

1. 総資源化率

◆改定プラン

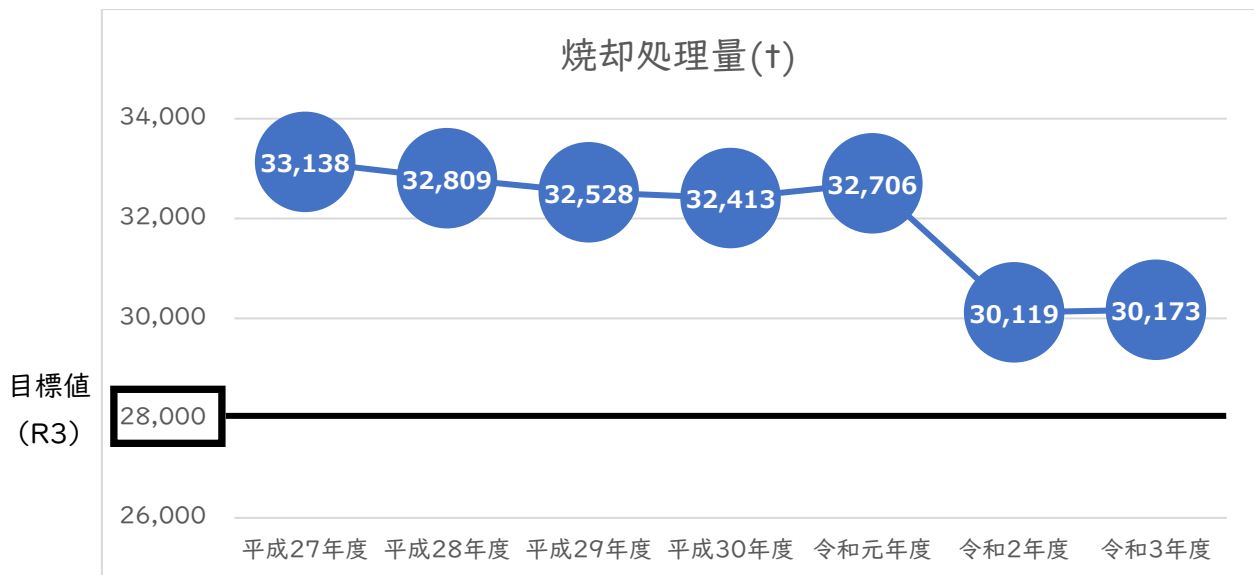
（ごみゼロプラン 15 ページの総資源化率を数値目標から参考値とするため、総資源化率の（ア）数値目標の末尾に次の文言を付け加えます。

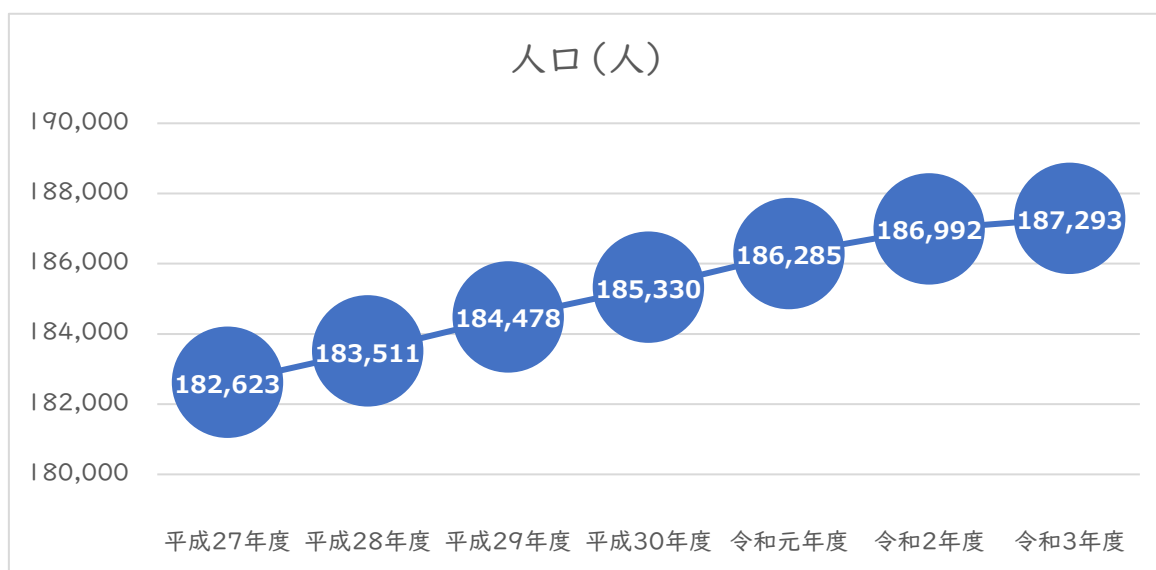
※ごみゼロプランの中間検証及び改定プランに基づき、資源物であってもさらなる発生抑制や行政回収から民間回収へシフトを進めていくことが重要ですが、行政回収量が減少すると総資源化率も減少します。そのため、総資源化率の向上は目指していきませんが、1人1日あたりのごみ・資源物排出量の減少を重視し、後期からは総資源化率を参考値として扱っていきます。

2. 焼却処理量

（ア）数値目標

焼却処理量は『平成 27 年度比 20%削減』を目標に、
令和 3 年度までに 28,000t 以下とし、
令和 8 年度までに 26,000t 以下とします。





検証

焼却処理量は令和2年度からのプラスチック類ごみ分別回収に伴い、前年度から約2,500t以上の大幅な削減を行うことができました。それ以外でも、公共施設から排出される剪定枝等を民間の資源化施設に排出する等の努力を行いましたが、目標値には約2,000t届かない結果となりました。人口は増加傾向となっており、焼却処理量の増加につながる要因となっているほか、コロナ禍の影響によるごみ量の増加もあり、目標の達成が困難な状況がありました。今後も大規模マンション建設等の人口増加要因がありますが、焼却処理量の低減はCO2削減に向けて重要な項目となっておりますので引き続き、低減に向けて取り組んでいきたいと思います。令和8年度の目標値は実現可能性を考慮し、令和3年度の実数値(30,173t)を踏まえた修正が必要と考えます。令和3年度目標と令和8年度目標の差が2,000tとなっていることから目標値は令和8年度28,000tに修正し、焼却処理量の削減に向けて取り組んでいきます。

◆改定プラン

(図3-3 数値目標③ 焼却処理量の後に次の文言を付け加えます。)

※ごみゼロプランの中間検証及び改定プランに基づき、令和8年度の目標値は実現可能性を考慮し、令和3年度の実数値(30,173t)を踏まえた修正を行いました。令和3年度目標値(28,000t)と当初の令和8年度目標値

(26,000t)の差が2,000tとなっていたこと、また今後の人口増加等の要因も鑑み、目標値は令和8年度28,000tに修正し、焼却処理量の削減に向けて取り組んでいきます。